



平成 20 年 2 月 15 日

各 位

会 社 名 楽 天 株 式 会 社
代表者名 代表取締役会長兼社長
三 木 谷 浩 史
(JASDAQ コード 4755)
問合せ先 取締役 常務執行役員
高 山 健
電 話 03-6387-0555

平成19年12月期 当社業績の前期との差異に関するお知らせ

本日、当社グループは平成 19 年 12 月期業績について「平成 19 年 12 月期決算短信」を
発表しましたが、前期業績との差異が大きいため、その概要について下記のとおりお知ら
せいたします。なお、当社グループは業績予想を開示しておりませんので、ジャスダック
証券取引所の規則に従い前期との比較を行っております。

記

1. 平成 19 年 12 月期の業績 (平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日)

(1) 連結業績

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 18 年 12 月期実績 (A)	203,271	29,148	30,406	2,702
平成 19 年 12 月期実績 (B)	213,938	118	2,376	36,898
対前期増減額 (B-A)	10,666	△29,029	△28,029	34,196
対前期増減率	5.2%	△99.6%	△92.2%	—

(2) 個別業績

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 18 年 12 月期実績 (A)	49,418	17,284	22,742	11,708
平成 19 年 12 月期実績 (B)	61,630	18,471	19,731	17,243
対前期増減額 (B-A)	12,211	1,187	△3,011	5,534
対前期増減率	24.7%	6.9%	△13.2%	47.3%

2. 業績の概要

(連結) 当連結会計年度(平成19年12月期)については、『楽天市場』『楽天トラベル』などの事業が堅調に推移する一方、楽天K C(株)のクレジット事業譲渡(平成18年11月)や株式市場の影響を受ける証券事業での収入減少などの影響で、売上高は213,938百万円(前連結会計年度比5.2%増)となりました。営業利益については、楽天K C(株)の事業再構築の一環として行った利息返還損失引当金の見積差額一括計上(251億円)の影響等により、営業利益は118百万円(前連結会計年度比99.6%減)と減少しました。一方、証券事業において投資物件の売却に伴う営業外収入が発生したこと等により経常利益は2,376百万円(前連結会計年度比92.2%減)となり、更に平成19年12月期の第3四半期における持分法適用関連会社Ctrip.com International Ltd.株式の売却益等により当期純利益は36,898百万円(前連結会計年度の当期純利益は2,702百万円)と大幅に増加しました。

(個別) 売上高は、『楽天市場』などE C事業が堅調に推移したことなどを要因に、61,630百万円(前事業年度比24.7%増)となった一方、営業利益については、グループ横断的な開発投資による費用増などにより、18,471百万円(前事業年度比6.9%増)と、売上高の増加に比し小幅な伸びにとどまりました。経常利益は、平成18年12月期にあった子会社からの受取配当金が当該子会社の利益減少により平成19年12月期になかった影響で、19,731百万円(前事業年度比13.2%減)となりました。当期純利益については、持分法適用関連会社Ctrip.com International Ltd.をはじめとした関係会社株式売却益(特別利益)45,801百万円および当社子会社の楽天メディアインベストメント(株)の特別清算に伴う関係会社清算損(特別損失)20,063百万円などの影響もあり、17,243百万円(前事業年度比47.3%増)に増加しました。

以 上